

## 人間は自己の運命の主人であり、革命の主人である

ラクマワティ・スカルノプトリ

スカルノ教育財団設立者

インドネシア・朝鮮友好協会設立者

チュチュエ思想とは、自主自尊の思想と解釈されることが多いが、朝鮮民主主義人民共和国の創始者である金日成同志が、日本の植民地主義に対する朝鮮民族の闘争の時代に開発したものである。

1982年、偉大な指導者である金正日総書記はチュチュエ思想を詳細に発展させ、さまざまな機会にチュチュエに関する主な考えを一冊の本にまとめた。

当初、チュチュエはマルクス主義の影響を受けた闘争思想であると考えられていた。しかしその後の発展の中で、チュチュエは朝鮮独立闘争の中で独自の思想として成長することに成功した。チュチュエ思想は原理的に、すべての人間は自分の運命の主人であり、自分の革命の主人であると説いている。

チュチュエの核心的な教えは、私たちがブン・カルノ大学のブン・カルノ教育カリキュラムを通じて、ブン・カルノの民族性と主権の思想を広めるために行ってきた努力と一致している。

チュチュエ思想は独立革命の時代にも現在の新植民地主義の時代にも、敵の猛攻の中で朝鮮民主主義人民共和国を存続させたことで、その偉大さが証明された理解している。

これはチュチュエ思想が他国の圧制に直面した朝鮮社会の経験から生まれたことを示す強い証拠である。

われわれは、朝鮮が地理的に中国、ロシア、日本という領土的野心を持った他国に囲まれていることを認識している。朝鮮が自主を維持するためには、常に戦略的な思考と措置が必要である。チュチュエ思想は自主を達成し維持するための思想である。

人間は原理的に社会的存在であると同時に個人的存在であり、他の人間の圧迫を受けて生きることを望んでいない。

抑圧と植民地主義との闘いの中で、この原理が自力更生の政治を生み出

した。

かつてブン・カルノは、チュチェ思想のような思想は基本的な哲学であると言っていた。他国からの圧迫を受けたインドネシアの人々の人生経験から生まれたものだった。

このようにして、私たちは自分たちの運命を他国に依存するような国にならないようにする。私たちの国の運命は、さまざまな形の植民地主義や抑圧から自分たちを解放するための私たちの闘いによって決まる。